

久万美コレクション展II

芸術家の
もう一つの顔

2020年12月15日 (火)
▶ 2021年4月11日 (日)

開館時間 9:30 ~ 17:00 (入館は 16:30 まで)

休館日 月曜日 (ただし 1月11日は開館) 1月12日、2月12日、2月24日、年末年始

観覧料 一般 500(400) 円、高大生 400(320) 円、小中生 300(240) 円

※ () 内は 20 名以上の団体料金

※ 高齢者 (65 歳以上) ・身障者・療育割引の方は証書・手帳等の提示で半額。



町立

久万美術館

上段：江山焼《山本鼎絵付蛙紋菓子鉢》1930年、個人蔵 / 下段右：江山焼《下村為山絵付菖蒲紋菓子鉢》1914年、当館蔵 / 下段左：窯元不明《長谷川竹友絵付水鳥紋菓子皿》昭和初期頃、当館蔵

〒791-1205 愛媛県上浮穴郡久万高原町菅生 2-1442-7
電話 0892-21-2881 / FAX 892-21-1954
<http://www.kumakogen.jp/site/muse/>



芸術家は洋画家や日本画家、陶芸家などと呼ばれます。油絵具とキャンバス、岩絵具と和紙、呉須と陶磁器といった技法などが異なるだけで、自身の芸術の道を邁進していく上では、それらの分野の区分はさほど重要なことではないのかもしれない。

日本画家・石井南放が1950年代に制作した《樹》シリーズは、その時代に流行した抽象絵画を岩絵具で実践したような作風です。逆に、技法的な面で日本画の要素を加味した洋画作品の制作に勤しんだ洋画家たちもいます。萬鉄五郎は《風景・モノクローム》において、油絵具の黒色のみを用いて、墨画のような油彩画を描き残しました。古茂田公雄《面河溪》は、油絵具の油分を新聞紙でふき取り、岩絵具のような質感をもつ油彩画を手がけました。これらの背景には、日本人として、独自性を追求した痕跡が見て取れます。

ここ愛媛では多くの文人墨客、画家が陶磁器に絵付をして、作品を残しました。山本鼎は来松した際、越智恒孝らの手引で、江山焼に絵付を施しました。愛媛の芸術家らによる「芸術のお接待」。自県の伝統文化を享受してもらおうとする姿が見て取れます。愛媛を舞台としたコミュニティー文化の一端とも言えるでしょう。

「余技」と呼ぶにはもったいない、芸術家らの分野を超えた、もう一つの顔をお楽しみください。



● 久万美開館記念
3月21日(日)
観覧料無料!
32th Anniversary

● 学芸員解説 ※要観覧券
3月20日(土)
4月10日(土) 各14:00～
講師：当館学芸員

上段左から下村為山《夕景》制作年不明、萬鉄五郎《風景・モノクローム》1912年、山本鼎《風景》1912-17年頃すべて当館蔵
下段左から長谷川竹友《霊峰石鎚》制作年不明、愛媛県美術館蔵、古茂田公雄《面河溪》1956年、当館蔵

JRバス：松山から70分 / 予讃線松山駅から久万高原行「久万中学校前」(伊予鉄南予バス久万営業所と同所)下車徒歩15分
車：駐車場45台(無料)、松山市内から国道33号線で約1時間、高知市内から約2時間、松山自動車道・松山ICから国道33号線を高知方面へ35分



町立 久万美術館

〒791-1205 愛媛県上浮穴郡久万高原町菅生 2-1442-7
電話 0892-21-2881 / FAX 0892-21-1954
<http://www.kumakogen.jp/site/muse/>